



相模原市立千木良小学校 学校だより

千木良小だより



自ら学び 心豊かに 生きる子の育成

令和8年6月30日 No.4

学校評議員会での一コマ～あいさつの大切さを再確認する～

学校長 門倉 恭子

先日、学校評議員会が行われました。学校評議員会は、校長が地域の声をくみ上げ、開かれた学校づくりを進めるための支援やアドバイスをもらう大切な会議です。本校の評議員のみなさんは、千木良に住んでいる方で、千木良小が母校であったという方がほとんどです。年代も様々なので、委員の方々が在学していた当時の様々な千木良小の話が聞け、とても興味深く、毎回ためになります。

その会議の中で、こんなお話がありました。ある委員の方の話です。その方のお子さんは、校内だけでなく、地域で出会った方にも気持ちよく、元気なあいさつができる子です。「いつでも、どこでも、誰とでも、笑顔であいさつしよう」の今年の重点を、率先して実践しているような子です。でも、その子が言うには、「自分がいさつをしても無視をする大人もいる」とのこと。本人としては、不満が残ります。その子の言葉に、その委員の方はこう返したそうです。

「大人の中にだって、恥ずかしがり屋の人はいるよ。だから、返事が返ってこなくても、あいさつを続けていこう。」

自分の方はきちんとあいさつしているのに、返答がないと心がへこんでしまいます。次はもうしなくてもいいや、とってしまうでしょう。でも、相手の性格や状況などにも思いを巡らしながら、あいさつが返ってこない理由もあると考えること。それよりもあいさつを自分からしていくこと、あきらめずに続けていくことの方が大切だよと、お子さんに伝えていたのです。ご家庭の中でこういった会話がすることも素敵だな…と思いました。

先日、スクリーンで不審者情報を流しました。こういうことがあると、地域で会った人にあいさつをすることにためらいもあります。でも以前、警察の方から、「校内に誰かが入ってきたときには、まず声をかけること。声をかけられると不審者の方が警戒する」という話を聞いたことがあります。あいさつが飛び交う、誰もが顔見知り…そんな開かれた地域には、不審者も近寄りづらいのではと思います。自分の身を守る方法はきちんと教えながら、地域の一員として地域に関心を寄せること、地域の人に思いを寄せること、その第一歩があいさつであることも子どもたちに伝え続け、あわせて自分も実践していきたいと思います。



6月12日～13日、6年生10名は桂北小学校の仲間たちと日光へ修学旅行に出かけました。出発前、日光方面に雷雨の予報が出ており、学校に残る職員からもだいぶ心配をされました。しかし、旅行中、傘を開く場面は一度もなく、初めて傘を開いたのが、千木良に到着してバスから降りた時のみでした。天気も味方につけ、本当によい2日間を過ごしました。

修学旅行

6年生は、一人一人が自分のめあてをもって、この修学旅行に臨んだと思います。集団で行動すること、マナーを守って行動すること、旅行を楽しもうとする心など、この行事が、6年生をまた一つ、成長させたと思っています。これからの10人の活躍が楽しみです。

